

議事録

1 概要

議題・会議名	令和6年度 第3回 学校運営協議会
開催日時	令和6年 11月 15日（金）午前9時15分から11時15分まで
場所	静岡県立清水特別支援学校 多目的室
出席者	外部委員6名 本校教職員10名 計16名
目的	・学校と保護者及び地域住民等との間の信頼関係を深めるとともに、その権限と責任の下、保護者及び地域住民等の学校の運営への参画、学校運営の改善及び児童生徒の健全育成に取り組むものとする。 ・開かれた学校づくりを進め、地域と連携した防災教育の展開や学校の防災体制の整備等について協議するため、学校・自主防災組織・市町防災担当課等で構成される「防災教育推進のための連絡会議」を定期的に開催し、関係者の顔合わせだけでなく、地域の人材や教材を積極的に掘り起こし、地域に根差した防災教育を行うものとする。
テーマ	『清水とともに』をコンセプトとした地域共同学習のアイデア ～支援する・されるという関係ではなく、活動を通して ともに必要とするような関係をうみ出す～

2 議事

9時15分 令和6年度第3回学校運営協議会 開会

- ・外部委員6名、本校教職員10名、計16名で開会した。

校長挨拶

- ・校長より、挨拶が行われた。

9時20分～10時25分 協議『清水とともに』をコンセプトとした地域共同学習のアイデア

- ①趣旨説明（副校長）
- ②今年度のともに育つ交流活動（学習）の様子（地域連携課長、各部主事）
- ③グループワーク（3班による協議）

10時25分～10時35分 休憩

10時35分～11時15分 グループワーク

11時5分 グループワークの報告（各課長）と全体協議

- ・3グループからの報告

1班 A委員、F委員、教頭、小学部主事、教務課長
より良い発信の方法について

【報告】紙面やホームページだけでなく、より瞬発力のあるInstagramを活用するにあたり、どのような発信をしていくかについて協議した。

更新頻度について、世間では食事をしながらスマホを見る世代がとて多く、10代から30代で70%、30代から50代であっても2人に1人、50%はスマホを見ながら食事をしている。食事の時にスマホを見る行為には、時間の有効活用という感覚があるとのことで、本校の発信も、頻度高く更新したり、飽きない、新しい、様々な情報をあげたりする等、次々に発信して

いくことが有効だと考える。Instagramの運用開始後は、更新ルールを決めて更新していけばよく、運用しながら丁度よい更新頻度を探っていけばよい。パソコンやInstagramが、できる、できない、得意、得意でないと、様々な人がいるので、更新する作業もできる人が行うことでよい。ホームページの更新は業者に頼んでやっていることも多く、できる人材を活用して、より良い発信をしていきたい。また、更新については、開いたけれど記事が更新されていないという場合があるため、次の更新予定と一緒に載せて、楽しみに待ってもらえるようにする。

発信する内容について、写真だけでなく、短時間の動画を上げることでより伝わりやすいのではないかと。例えば、活動している様子、給食の様子等、動きがあると与える印象が変わる。

本校ではInstagramやホームページに児童生徒の顔を出してよい、出さないでほしいという本人や保護者の希望があり、その配慮で後ろ姿や横からの姿を発信することが大変多い。見る側は、笑顔や人が喜んでいる顔などの、生の表情を見たいという思いがあり、生の表情は発信力がある。後ろ姿の写真は本人の気持ちが伝わりづらく、やらされている感じが出る場合もあり、受け取り手にもよるが、子どもたちの純粋な姿を見てもらうことができるのと良いのではないかと。先日の高等部1年生の秋葉山(峰本院)掃除では、その活動の様子には、丁寧に取り組んでいる純心無垢な感じや、相手に「私はそこまで丁寧にできない」と思わせるような姿があり、そのような姿が、子どもたちを知ってもらう良い発信だろう。

地域との関わりについても、地域の人と関わっている様子、可愛がられている様子、地域の方に愛されている姿を発信できると、地域との繋がりを分かっていると感じやすい。本校の子どもたちが地域の方と触れ合っているところを見てもらい、子どもたちのできること、コミュニケーションがとれること、やり取りができること等の姿が、特別支援や障害について知らない人、少し距離を置いている人、分からないが故に不安を抱いている人たちに、子どもたちのことを知ってもらうきっかけとなり得ると考える。

【全体協議】

C委員

動画の良さは分かるが、保護者目線で考えると、深く、詳しい情報を提供してしまうことで犯罪に結びつく心配がある。犯罪と結びつかないような人が罪を犯す世の中なので、加減が大事だと考える。後ろ姿でも十分伝わるのではないかとと思う。動画を見て目をつけられる…ということがあると、怖いという思いがある。

A委員

写真、動画については、PTA等と一緒に考えていくと良い。最初からトップスピードで走る必要はないので、試しにやってみて、より良い方法を探っていけばよいのではないかと。

世の中の変化のスピードや対処の仕方があるので、懸念があるから辞めるのではなく、まずは動いてみたり、始め方を考えたりすることが良いのではないかと。

B委員

初代の校長先生が「発信」を大事にしていた。もう一つのキーワードに「輝き」を掲げていた。学校での子どもたちの輝きを少しでも多くの方に知ってもらうために、当時はホームページで発信していた。今日的なツールを使って発信していくととてもよい試みだと思う。積極的な発信を、学校が踏み出せないのは、肖像権の問題や、安全性の問題、それから、公平性の問題など諸々ある。民間企業や、事業所等ではやれることも、学校では大変だと考えられるが、何とか突破口を開いてもらいたい。

Instagramという方法も良いが、オフィシャル的な感じのホームページの充実ももってほしいと感じる。例えば、重要事項という項目に、荒天休校の日に「今日はありません」と書かれていることがあった。県立の学校の対応状況は、事業所等の立場では、とても信頼のおける行動規範になる。保護者向けには別のツールで伝わっていると思うが、地域に対しても周知する機能を持つと良い。防災の関係や危機管理的なこと、災害時等に学校のホームページを見れば情報が得られる、と思わせる発信をすることも大事かと思う。

A委員

重要事項は、リアルタイムで更新できるのか。

校長

現在、県全体でホームページの仕様を変更しているところだが、まもなく公開され、重要事項などの情報は随時発信できる。これまで、荒天等のための対応は、保護者連絡ツールのコーナーでのみ知らせていた。先程の意見より、休校や、感染症の流行等を発信することで、地域の人に役立つ情報になっていくのだと感じた。

A委員

ホームページもパソコンで見る形よりも スマホで見る形の方が閲覧頻度は比較的高い。情報を得るツールとして、ホームページだけより、世の中一般的に一番見られているツールを使うということが重要ではないかと思う。

2班 B委員、C委員、事務長、中学部主事、地域連携課長

交流や地域共同学習の持ち方について

【報告】本校での現在の取り組みは、立地条件を生かし、とてもよいと評価していただいた。一方で、一過性になっていないか、バリエーションを増やす視点ではなく、子どもたちがどう変容してきたか、地域がどう変容してきたかを一つ一つ価値付けしていき、それを発信することが大事ではないか。

一つ一つの深化を評価しながら、学校の教育活動として位置づけていくこと、そして卒業後にいかにつなげていくかということが大事ではないか。学校で取り組んでいても、高等部を卒業すると、多くの卒業生が余暇活動で悩むというような現状もある。現在、中学部、高等部で松葉かきに取り組んでいるが、これをサークル活動で繋げていくという方法もある。

今の交流活動では、高齢のボランティアさんとの関わりが多く、小さい頃からインクルーシブの素地を作っていくことが大事だと考えると、例えば、年代を下げた幼稚園の頃から関わりと良い。学校がどのようにインクルーシブを考えていくかということも重要である。

学校と地域という捉え方だけではなく、子どもたち個々の地域という考え方をすると、例えば防災が一番取り組みやすい。また、交流籍交流では、学籍のある学校といかに地域に帰った時を想定した交流ができるかを考える、高校との交流も盛んに行われ始めたが、単発で終わる交流ではなく継続した関わりができる環境作りをいかにするかを考える必要がある。例えば、附属特支や、藤枝特支では文化祭を一緒に作り上げていく取り組みをしていて、一過性で終わるのではなく、ずっと関わっていた中で、互いに学びがあったり、気づきがあったりするという交流がされている。交流のし始めは、「いい子でいよう」と過ごす様子があるが、だんだん交流が深まってくると、戸惑いや嫌な思いをする等、様々な体験を繰り返していくことで真の理解に繋がるので、単発で終わる活動ではなく、継続的な関わりの中で学びにつなげていきたい。交流先の学校にアンケートを取る機会があれば、相手校の生徒が何を欲しているかということを知ること大切ではないか。

B型の作業所は、工賃と補助金の関係があり、苦しい中で運営しているとのことである。作業学習で「ものづくり」に取り組んでいるが、それだけではなく、物流、商社的なやり取りや学びもできるのではないか。例えば、B型作業所の製品を学校で仕入れるというような取り組みで、注文を取って、それを発注して仕入れて、お金のやり取りをするという活動もできるのではないかと、ぜひやってほしいと思っている。

【全体協議】

A委員

交流について、どのタイミングについては分からないが、私たちの会社では、社内のメンバーは、メンバー内で交流があり、さらに静銀ハートフルさんと繋がって、メンバー同士で、飲み会を行った。今後ボーリング大会にも発展している。一昨日の「企業と語ろう」では、静岡県の特例子会社の社員も参加し、そこでの繋がりが異業種交流となり、中部電力さんや旭化成さんを入れて、異業種のメンバーが、同じ「働く人」として繋がった。共通項があると交流は続くと思う。同じ趣味、同じ興味等、共通項があれば、会社が違っても一緒に活動できる。サ

サッカーチームが会社にあるが、障害の有無に関わらず一緒にサッカーをやるという繋がりができている。釣りが好きな社員と一緒に海釣り、クラブ活動に行く等、共通項が何かあってこそインクルーシブな交流が自然発生的に生まれる。無理やり作る交流は、その時は楽しかった、で終わる。継続するためには共通の何かがあり、そこに入った結果、たまたま支援学校卒、大卒という人たちが、「同じ」を基にして、継続して交流するのではないかと思う。

支援学校の学びの段階で、どこまでできるか、様々な制約条件がある中でどう考えるか。

B委員

学校は学ぶ生活で、卒業後は働く生活と区切られている話を聞くが、卒業後も働く生活だけではなく、サークル活動や趣味があったり、諸々の楽しみがあったりすることで豊かな人生になっていくものであるが、学校は簡単に割り切っている感じがする。自分が教員だった時に卒業した彼らについて、仕事の様子は分かるが、それ以外をどのように過ごしているのかは知らない。敢えてリサーチしたこともないが、彼らは卒業してから何年後かに、どのように余暇を過ごしているのかを、会社等と連携して把握してみるのも良いのではないか。豊かな生活が送れていればよいが、親御さんたちや周りの人、ご本人が無理に過ごしている時間等があるとしたら、学校で取り組む内容を考えるヒントになる。

A委員

OB会活動等、学校ができることは繋げる、繋がり直すという場の提供はできる。OBでサークルがある、ネットワークを持っている人が、先輩や後輩と繋がり直す場になってもよいし、在籍の生徒さんたちと繋がるというのもよいのかと思う。

B委員

交流館等でいろいろな講座があるので、それらを紹介しながら、今ある社会資源で、使えるもの、使いにくいものの要因を探り、後押しをする、受け入れ側の戸惑いを手伝う等をやれるといいとよい。特別支援学校の先生が追ってくわけにはいけないので、繋がり部分を見てあげながら、今の社会資源の中に、障害のある方が講座を受けることが当たり前という風にしたい。そのような広がり期待したい。

A委員

発信の場が繋がり、例えば、発信する中にOBの活動などもあげて、交流する場についての情報提供をするのもよいかと思う。うまく繋がる可能性を広げる発信が大事である。

校長

三保の保全事業が一つのキーになると思っている。放課後等デイサービスの方たちが土曜日、日曜日の活動で行っていたり、本校の生徒も松葉かきが初めてでない生徒もいたりして、清水の会社の福利厚生で参加しているという取り組みもある。三保に関しては、卒業しても行ってみようと思う活動ではないかと思う。

A委員

その活動は、楽しいものか。

校長

どんどん取れて、松葉がなくなっていくので、とても分かりやすい活動である。

高主事

前は午前中に、少し体験する予定で行ったが、どんどん取れて、目に見えて成果が分かるので、自分たちがやって綺麗になる楽しさを感じたと思う。

A委員

例えば、その松葉で焼き芋を作る等のプラスの楽しさという意味ではどうか。

高主事

学校が行く活動の日は平日だが、土曜日にイベントが開催され、カラービニールにたくさんの松葉を詰めて、青と白の袋で富士山の形にみんなで積み上げたり、記念撮影したりして、それをInstagramにアップするという、プラスアルファの活動、楽しみを取り入れたイベントがあった。

また、動き出したばかりだが、本校の中学部と高等部では、松葉を使って紙を作ったり、鉢ポットを作ったりする活動に取り組んでいる。

A委員

社会の人を呼び込むときに、プラスのイベント、例えばバーベキュー等の楽しみがあると良い。綺麗にもなり、楽しみもあると呼び込みやすい。

高主事

休日の松葉かきでは、大人の参加者にはビール、子どもにはお茶、そして会社さんの商品券等をお配りするというをやっていた。

A委員

そういう輪の広がり、地域企業との繋がりが生まれる。

校長

私たちが行くのは、授業日だが、保護者を巻き込み、保護者の活動として親子で行けば、休日にも行きやすいと考えている。活動自体を知っていて、土曜日に行けば楽しみもあるし、放デイも土曜日に行っている、保護者と一緒に行けばイベントや楽しみにも参加できる、卒業したら自分でも行ける、となっていく魅力ある松葉かきではないかと思っている。

A委員

子どもたちは学生の際は練習として参加し、卒業したら本番。本当に楽しんだり、昔の仲間と繋がったり、新しい出会いがあったり、一般参加の人たちとも活動したりして、面白い。

B委員

在学中から繋ぎの部分をやっていてあげないと、説明して突然に行きなさいと言われても繋がらない。とてもよい。

高主事

高等部は今年度から始めた活動だが、松葉かきの参加をきっかけに休日のイベントの紹介もいただき周知したところ、数組の小中高の親子の参加に繋がった。

A委員

1回参加すれば、その親子さんたちが他の親子に口コミで広がってよい。

3班 D委員、E委員、副校長、高等部主事、進路指導課長 地域共同学習のアイデアについて

【報告】飯田まつり、未来創造トークを経験し、地域の方から出た意見を聞くことができた。関わりが少ないので、まつりに参加することで認識してもらえる良い機会になり、近隣の高校生も、一緒に活動して楽しかったという声があった。

地域の資源を活用することについて、エスパルスとは交流しているが、くふうハヤテさんとの交流も考えてはどうか。ハヤテさんの側も、地域貢献ということを考えているそうで、例えば、球場の掃除をするなど、互いに利益のある活動をしていけるとよいのではないかと。こちらは掃除に行き、あちらは学校に来てキャッチボールする等、そのような活動が組めるとよい。

もう一つは、インバウンドのお客さんに対して何かできれば広がっていくのではないかと。寄港した際に、製品を配る等、難しいことかもしれないが、少しでも踏み入れていくことができると、学校のことを知ってもらうだけでなく、この地域の資源を利用した、幅広い活動ができるのではないと思う。取り組むにあたり、準備が大変だと思うが、そのような活動が自然とできる関係作りを目指したいと考える。

寄港についての情報は、年間で先まで分かっている、情報をいただけるので、できることを探してみたい。

【全体協議】

E委員

寄港は朝に来て、夕方5、6時に出発する感じが多い。清水区内で過ごす方もいるが、バスで御殿場まで行って過ごす方もいる。

清水では商店街で、お茶を飲んだり、着付けをしたりする等の色々なおもてなしをしているが、船から降りてきた段階で、日々の作業学習で製作したものをお土産に渡すということができるのはどうか、思い出になるものや機会が作れるかなと思う。

A委員

海外の方が来て、映えスポットとしてインフルエンサーや有名な人が Instagram などに載せてくれば、あっという間に大人気スポットになる。資源さえあれば、清水でも、例えば、商店街の中の何かがすごく映える、面白い、学校の生徒さんが何かを配る等、何をすればよいかは分かりませんが、それが全世界に広がると思うと、発信力というのは大きい。グローバル発信して、それがその後に、日本人がすごいと気づく、という例もある。何か仕掛けていくというのはとても価値があると思う。発信されることを想定しながら企画をしたらいいのかと思う。世界的にもそれほどやってない取り組みかと思う。

静岡には富士山、水等、色々とあるので、ある資源でおもてなしをするということも考えられる。外国人受けするようなキーワードであれば、できることもあるのではないかな。

F委員

神戸港ではボランティアの方が入港する時に楽団をやっている。来た人たちが、「もうこんなところに二度と来るか」と思わせないこと。「また来たい」と思わせること。

A委員

チアダンス、ボディーパーカッション等、価値がある。

校長

清水特支は、清水港から遠い。平日に客船が入港しているので、何かできたらと思う。「ようこそ清水へ」のメッセージカードの裏にホームページの URL と、「あなたの国の素敵な写真を送って」とメッセージをつけて贈れば、返信が来ると思う。しかし、船の場所まで行く手段を考えると、なかなか難しい。

F委員

銀座あたりに歩かれている方がいる。買い物をしようにも、商店街の店は、米ドルは使えない、カードが使えないので、お店を準備中にしてしまう、ということがある。

秋葉山（峰本院）が清水の銀座に出張して、お守りを出したらいいかなと思っている。

B委員

インバウンドではないが、清水銀座の七夕で、元々清水に住んでいた方が、何十年ぶりに七夕まつりを見て、かつての賑わいは全くなく、笹からつる下がった飾りではなく置いてある飾り、古びた飾りも置かれているという様子に寂しい思いをして歩いていたら、清水の特別支援学校が作ったものがあり、それを見てほっとしたと言っていた。学校でやっていることを、見てくれる人はいる。それならば、清水の学校コーナーのようにしてしまっって、いろんな高校や幼稚園、いろんなところとインクルーシブのコーナーのように、発信していくというのも、面白いと思う。

A委員

秋葉山のお守りや、お茶屋さんとの繋がり等、清水特別支援学校単体で展示等でアピールするよりも、コラボするとパワーも全然違う。単体でいく必要はなく、協力していただけるところとセットでやるということを考えてとよいのではないかな。

色々と 深い議論と、様々なアドバイス、追加の情報も含めて、充実した内容となった。

できるところから少しずつやって、理想はこの形かもしれないが、一步一步進めて、課題があればそこで知恵を絞って、多くの人と協力して、地域全体で盛り上がる活動に繋がるとよいと思う。

11 時 20 分 事務連絡・閉会

【次回の予定】

予定日時	令和 7 年 2 月 5 日（水）午前 9 時 15 分から 11 時 15 分まで
場所	静岡県立清水特別支援学校 会議室

